

早稲田大学

AEON
イオン環境財団



AEON TOWA リサーチセンター

2022年度シンポジウム

2023年 **1**月**19**日(木) 13:00~17:30

早稲田大学大隈講堂

多世代で語る 共に育つ里山 ～里山教育プログラムからみた現在と未来の里山～ 資料集

主催 早稲田大学環境総合研究センター
AEON TOWA リサーチセンター
共催 公益財団法人イオン環境財団
問い合わせ aeontowa@list.waseda.jp

写真：松江市宍道ふるさと森林公園 イオン環境財団の植樹

<座席配置>

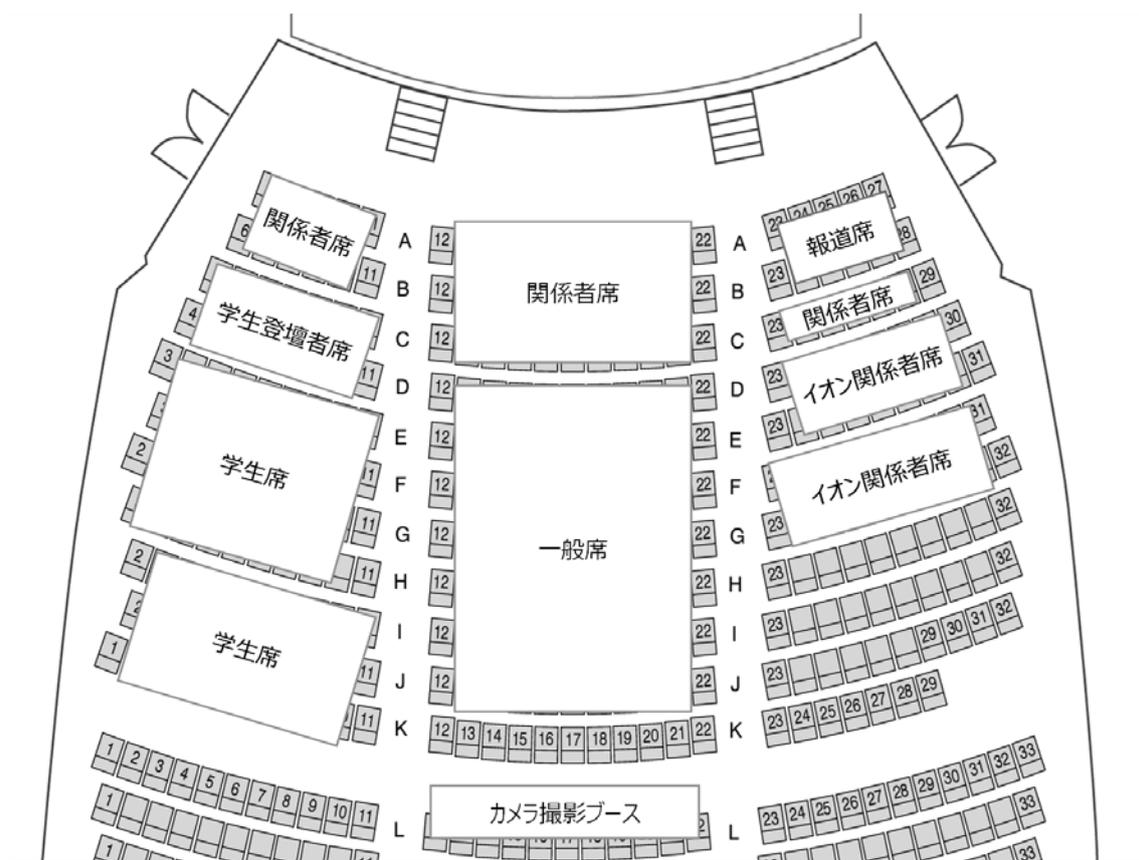
座席は以下の区分にしたがって前の方から、間隔を開けておかけください。

後ろ座席は機材等の都合で、舞台が見えにくくなっています。

二階席は使用できません。

また、大隈講堂は文化財のため、ロビーも含めて飲食ができません、建物の外にてお願いいたします。

感染対策のため、マスクを着用ください。



AEONTOWA リサーチセンター研究報告会 2022 次第

➤ タイトル

多世代で語る、共に育つ里山
～里山教育プログラムからみた現在と未来の里山～

➤ 期日

2023年1月19日(木) 13:00～17:00

➤ 場所

早稲田大学大隈講堂

➤ プログラム 基本進行表、登壇者、リモート登壇者一覧 (全てさんづけで統一しております)

挨拶 岡田元也さん 特定公益法人イオン環境財団理事長 (AEONTOWA 共同代表)
田中愛治さん 早稲田大学総長

第一部「社会デザインのきっかけとなる里山」50分 13:10～14:00

寄附講座「サステナブルコミュニティ論」を中心に展開してきた新しい地域と里山の捉え方の学びを中心に、学生たちが地域で取り組んだ活動などを報告し、視察先自治体などの関係者と持続的な社会デザインについて考える。

- モデレーター 岡田久典さん AEONTOWA リサーチセンター副代表・早稲田大学上級研究員

◇ 早稲田大学社会科学部寄付講座「サステナブルコミュニティ論 1・2」、グローバルエデュケーションセンター「地域、環境、エネルギーを考える」、「再生可能エネルギーから地域を考える」紹介

<学生の声(登壇者)>

- 猪又友理子さん 早稲田大学社会科学部3年
- 西澤佑里乃さん 早稲田大学文化構想学部4年
- Kerr なおみさん 早稲田大学国際教養学部1年

<受け入れ自治体・地域の声(リモート登場)>

- 宮 久史さん 北海道厚真町産業経済課主幹
- 土屋裕樹さん 山形県小国町総合政策課政策企画室長
- 尾形和宏さん 千葉県いすみ市企業誘致・魅力づくり室室長
- 隈部清丈さん 千葉県いすみ市企業誘致・魅力づくり室班長
- 河野耕三さん 宮崎県綾町ユネスコエコパーク推進支援員

<第一部総括 登壇者>

- 黒川哲志さん 早稲田大学社会科学部教授(寄付講座代表教員)
- 西原謙策さん イオン環境財団事務局次長

第二部「共に育つきっかけとなる里山」70分 14:10～15:20

カリキュラム等を通じて、大学生とイオンピープルが共に学ぶ「共育」や、現場実践の学生活動を試行してきたが、その成果について報告し、現場実践の学び、多世代共創の学び、対話やディスカッションの必要性を考える。

- 永井祐二さん AEON TOWA リサーチセンター事務局長、早稲田大学大学院教授
- 吉川成美さん 県立広島大学 MBA 教授
- ◇ AEONTOWA STUDENTS の活動概要説明
- ◇ ASEP(アジアトップ大学) の取り組み(海外の優秀事例紹介)
 - Nur Izzati Binti Arsad マレーシア大学学生 (リモート登場)
 - 吉永 園さん イオン環境財団
- ◇ 学生活動、イオングループと早稲田大学学生の協働インターンシップ
 - 小泉勇輔さん 早稲田大学学生、福岡県嘉麻市シティプロモーション推進員
 - 吾妻優大さん 早稲田大学政治経済学部 4 年
 - 横山景一さん 早稲田大学文化構想学部 3 年
 - 高垣慶太さん 早稲田大学社会科学部 2 年
 - 植田 航さん 早稲田大学社会科学部 2 年
 - 脇舩美菜さん 早稲田大学文学部 4 年
- ◇ 大学院環境・エネルギー研究科「国際環境リーダー講座」
 - 野津 喬さん 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科准教授
 - 鈴木嵩大さん 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科 1 年
 - 門澤亜弥さん 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科 1 年
- ◇ 統括 永井、吉川担当

第三部「課題解決のきっかけとなる里山」 60 分 15:30～17:00

その他の関係活動、研究活動を通じて、AEON TOWA が里山の可能性をどう捉えているか。人間と自然、地域・国際・平和など広い視点での議論を行う。

AEONTOWA リサーチセンター報告(社会デザインのきっかけとなる里山 + 共に育つきっかけとなる里山 + 課題解決のきっかけとなる里山に象徴される地域・社会・環境・平和創出の持続性の多世代、グローバル共育システムの確立をめざして)

- モデレーター 岡田久典さん AEONTOWA リサーチセンター副代表・早稲田大学上級研究員

◇ ディスカッション

<登壇者>

- 南川秀樹さん 日本環境衛生センター理事長、イオン環境財団理事、元環境省事務次官、AEONTOWA 未来構想会議委員、中国政府環境委員会国際委員
- 高木浩徳さん 長崎県南島原市みんなの森守協議会事務局長
- 曾我実由さん 早稲田大学商学部 3 年生
- 渡邊紘史さん 早稲田大学政治経済学部 3 年生
- 平塚基志さん 早稲田大学人間科学部准教授

<リモートでの出演>

- 大津さんご一家 (阿蘇の麓から昨年に引き続き コメントを頂く)

総括 小野田弘士 早稲田大学環境総合研究センター所長



AEON TOWA リサーチセンター 2022成果報告会

多世代で語る 共に育つ里山
~里山教育プログラムからみた現在と未来の里山~

第一部 13:10~14:00 「社会デザインのきっかけとなる里山」
モデレーター 岡田久典 早稲田大学AEONTOWAリサーチセンター副代表、
早稲田大学環境総合研究センター上級研究員

第二部 14:10~15:20 「共に育つきっかけとなる里山」
モデレーター 永井祐二 早稲田大学AEONTOWAリサーチセンター事務局長
早稲田大学環境総合研究センター上級研究員、研究院教授
吉川成美 県立広島大学MBA教授

第三部 15:30~16:30 「課題解決のきっかけとなる里山」
モデレーター 岡田久典



本日のねらい

現代の様々な問題を反映しているともいえる、里山(新たな定義を構築中)をベースに、自然・地域・社会・環境・平和の持続性対策と創出のなかで、地域と生活者目線で本学が目指す「たくましい知性」と「しなやかな感性」を備えた研究・人材育成・共育プラットフォームを形成する。

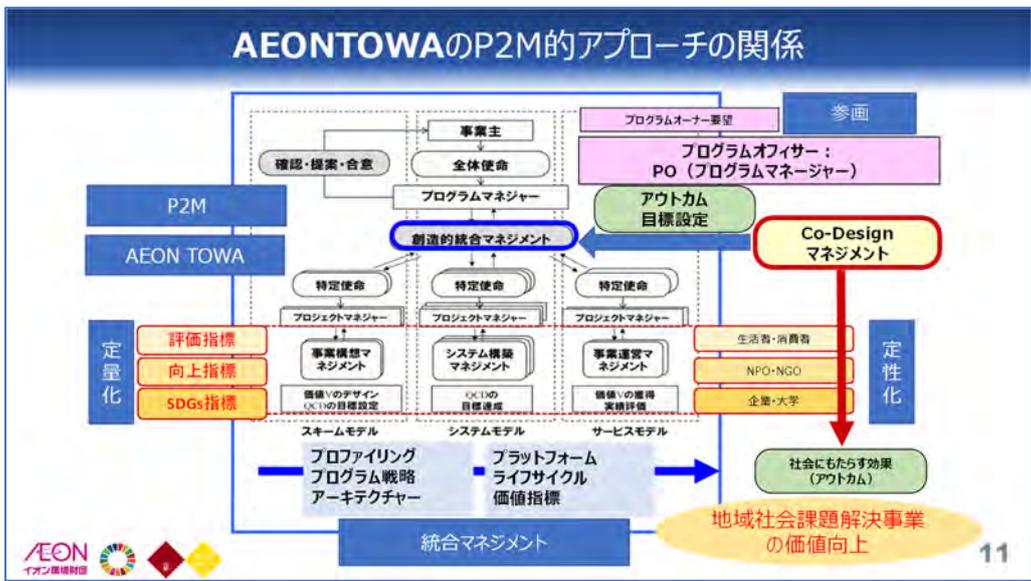
イオン環境財団と早稲田大学が協働で2020年に設置したAEONTOWAリサーチセンターを中核プラットフォームとして取り組んでいくための議論をおこなう。

いち早く、環境や里山を経営理念の中核として位置づけて取り組んでいるイオングループと早稲田大学もカーボンニュートラル社会研究教育センターを昨年12月に設置している。

社会実装、生活者目線の問題発見と取り組みをベースとして、カーボンニュートラルだけではなく、生物多様性も取り組む、より地域密着型・生活者目線・実装重視の方向性を明らかとする。



AEONTOWAのP2M的アプローチの関係



AEON TOWA戦略の形成

- 全国500の都道府県市区町村へのアンケート調査及び関係者ヒアリング
- 全国のべ3500名の地方議会議員研修の成果
- 内閣官房、総務、農水、国土、環境の関連省庁の局長、最前線担当者との意見交換、ヒアリング
- 専門家へのヒアリング
- 授業やイベントを通じたディスカッション
- (h-INDEXの高い学術誌を発行する)社会システムマネジメント系の学会での議論
- 以上を統合した、AEONTOWA未来構想会議での議論
- AEONTOWA プラットフォームを形成



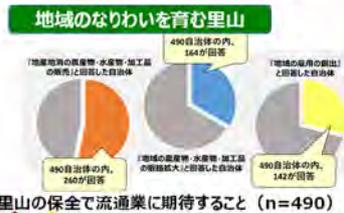
自治体意向調査から分析する社会のニーズ

自治体意向調査の回答数および回答率

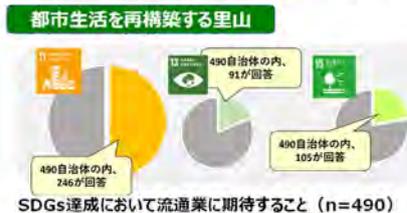
| 自治体 | 母数 | 回答数 | 回答率 |
|-------|-----|-----|-----|
| 北海道地方 | 180 | 37 | 21% |
| 東北地方 | 233 | 57 | 24% |
| 関東地方 | 323 | 109 | 34% |
| 中部地方 | 325 | 113 | 35% |
| 近畿地方 | 234 | 64 | 27% |
| 中国地方 | 112 | 26 | 23% |
| 四国地方 | 99 | 30 | 30% |
| 九州地方 | 282 | 54 | 19% |



森林・里山の保全、有効利用についての現状認識 (n=490)



里山の保全で流通業に期待すること (n=490)



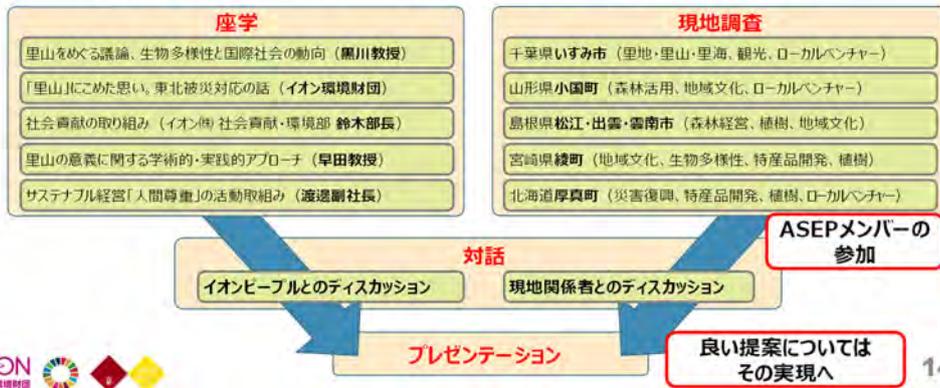
SDGs達成において流通業に期待すること (n=490)



イオン環境財団寄附講座 サステナブルコミュニティ論 1・2

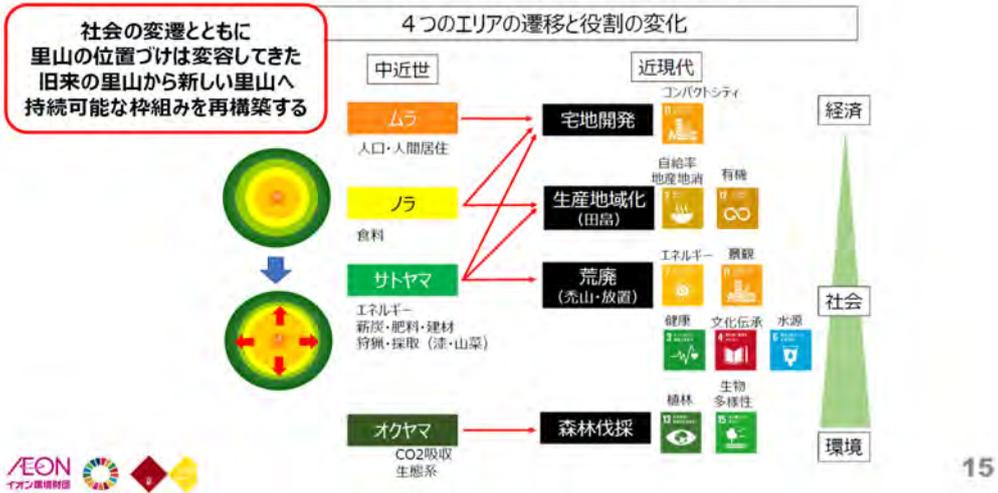
2022年 春・夏クォーター水4時限 社会科学部設置・全学オープン科目 受講者43名
 担当教員 黒川 哲志/早田 宰/岡田 久典/永井 祐二 配当年次 1年以上 2単位

イオンの里山の概念を用いて、サステナブルコミュニティを実現するためにはどうすればいいのか？について、最新の学術研究、先進事例を学び、学びを通じて共に考える。



14

社会デザインのきっかけとなる里山



15

**企業の枠を超えた
AEONグループ業界セミナー開催！
@早稲田大学**

イベント概要

新たな可能性を見つける
『イオングループ業界セミナー』の3ポイント

POINT 1

様々な業界を見て、
企業研究ができる！

POINT 2

多様な先輩社員の
実体験を聞ける！

POINT 3

気になること、
疑問点を直接聞ける！

16

講座に関する主な感想



渡邊副社長(謝辞部分などは省略)

イオンの歴史について学ぶ事で、我々の生きるこの世界でどれ程多くの人間、環境がイオングループによって支えられているのかわかる事が出来ました。SDGsの表明を表面的のみ取り繕う企業が多い中、実効策まで落とし込み行う姿勢に心を動かされました。

イオンの人事の取り組みでは、感謝自体が全体として、人々の生活を尊重し、地域社会に貢献する精神をもった集団というだけでなく、社員一人一人の志を聞き、心を知り、活かしていくことが重要であり、その結果が、会社全体の基本理念・軸に繋がっていくのだと分かった。

三方よしのうち、最も力の入りづらい世間よしに注力しているAEONの取り組みは営利のみを目的としていないため、社会的必要性があり、それが結果的に地域社会と結びついて売り上げにつながっているという側面もあることが分かった。

鈴木部長

小さい頃からイオンの黄色いレシートの取組が身近にあったことを覚えている社会貢献という言葉も知らなかったときに、貢献していたのだと気づけた。物販だけでなく、イオンの地域コミュニケーションの創出・交流拠点として利用可能スペースの提供など、社会に対して様々な価値を創出している一面に興味関心を持った。

日本ではイオンが初めてフェアトレード商品を取り扱ったということ イオンが世界を支えている存在であることを学ぶことができた。

イオン環境財団

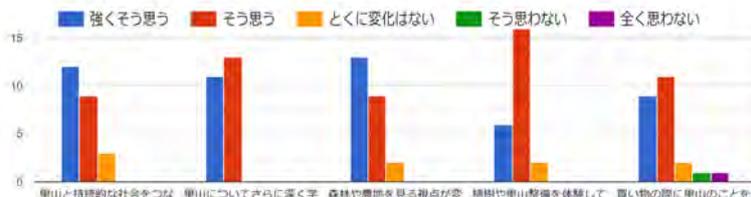
3.11におけるイオンの復興活動のストーリーを聞いて涙が溢れました。震災対応の実例では、震災直後から生活用品の販売開始という全国展開しているイオンの強みによる社会への効果性を理解できたのと同時に、その後の地方復興への貢献活動を見て大きな企業理念をイオンビジュアルの方々が一貫して主体的な行動により実行されていることに感動した。素敵なお話をありがとうございました。

ショッピングモールのイメージが強いイオングループが、具体的にどのような社会貢献を行っているのかわかる事が出来ました。大きなグループだからこそ、活動の幅も広く、効果的な環境保全活動が出来るのだと思います。

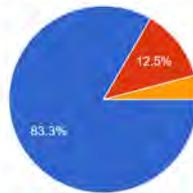
イオンが植えていた森林のおかげで3・11の被害をすくなくすることができたという話がすごく興味深かったです。

受講者の感想 受講後n=24

今回のカリキュラムをつうじての里山に関する認識の変化、自身のライフスタイルの変化など、変化があったか回答してください。



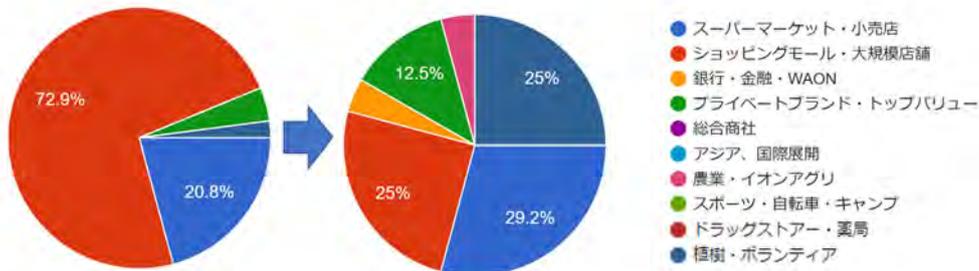
あなたはこのカリキュラムの取得を友だちや後輩に勧めたいですか。



18

受講者の変化 受講前n=48, 受講後n=24

イオングループに関する印象で一番強いキーワードはどれですか。



19



北海道厚真町 (災害復興、特産品開発、植樹、ローカルベンチャー)

厚真町では、大規模な地滑り災害から復興する地域再生の取り組みとして地域のベンチャー企業の話を知り、地域の特産であるハスカップ農園の取り組みを視察した。さらにこれらに寄り添うイオンの森づくりの現場を視察した。そして、本町では町長との対談も実現し、地域課題についてディスカッションを実施した。また、現地の地域の方々や役場の職員の方々との交流会が印象的であった。



23



山形県小国町

(森林活用、地域文化、ローカルベンチャー、域学連携、マルチワーク、地域エネルギー)

小国町では、特に森林資源を活かした活動を視察した。森林バイオマスの利活用として、森林組合の取り組みや、地元の木質ストーブ事業者を視察し、さらにこれらの地域資源を活かした取り組みを行う団体「カモスク」「おぐにマルチワーク共同事業組合」を視察した。また、木工体験や里山の魅力的な宿などの視察を行った。そして、現地の地域の方々や役場の職員の方々との交流会が印象的であった。



24



千葉県いすみ市 (里地・里山・里海、観光、ローカルベンチャー)

いすみ市では、沿岸の海の恵み、近接する山の恵みが一体的に感じられる場所や産品、人々の営みが見られ、東京近郊という地の利を活かした観光や移住者によるローカルベンチャーの取り組みを学んだ。特に1日目は、「いすみ鉄道」に代表される地域資源を活かした地域活性事業の状況を学び、2日目は豊かな里山景観を視察すると共に、海の幸も味わい、牧場なども訪問し、加えて、背景にある獣害、放置竹林の課題などを学んだ。



25



宮崎県綾町（地域文化、生物多様性、特産品開発、植樹）

綾町では、貴重な照葉樹林を守る活動の一環として行われるイオンの森づくりの現場を視察したほか、照葉樹林を守るに至った文化的背景などのレクチャーをユネスコエコパークセンターで受けた。また、里山を活かした果樹栽培や有機農業、照葉樹林の恵みを活かした草木染めなどの取り組みを視察した。さらに、近隣のイオンモールとの繋がりなども確認することができた。



26



島根県松江・出雲・雲南市（森林経営、植樹、地域文化）

島根県では、イオンの森で植樹を実施したほか、古来から続く出雲の国の森林経営を学んだ。大規模な森林組合による市民参加の集材、製材事業者「須山林業」の森林育成、集材、ブレカット工場などを見学、最後に、最も高級な森林活用の具体例である出雲大社を訪問した。実際に体を動かしながら植樹に参加する機会を得られた貴重な視察であった。



27

活動実績一覧 2022年度前半の例

| 期日 | 訪問地 | 概要 | 可能性 | 類型 |
|------|-------|---|--|------------------|
| 4/24 | 久喜市 | 商業施設店舗の植樹 空月、密開きに小野田研が参加 | スマートタウンの好事例となる研究連携構築 (特にモビリティやエネルギー効率化のテーマ) | 都市 |
| 5/3 | 白山市 | 白山店舗の植樹、周辺地域のサイトビジット | 山岳地帯から田園、都市から海でつながる自然、ジオパークにおける市民協働の価値の研究 | 自然 |
| 5/12 | 北九州市 | 栗田店舗周辺における まちづくりの議論 | 栗田周辺のまちづくりに資するポータルサイト構築 (新しい価値を表現するツールとしての研究) | 都市文化 |
| 5/14 | 竹富町 | 世界自然遺産関係の全合参加 周辺離島の状況視察(黒島) | 離島海岸のゴミ清掃・生き物調査について、学生サークルとの連携の可能性 | 自然 文化 |
| 6/4 | いすみ市 | 授業視察 鉄道会社とのワークショップ、里山 景観・地域資源の調査 | 鉄道会社と協力したプロジェクトの可能性 学生サークルとの連携可能性 | 自然 なりわい |
| 6/8 | 千葉市 | 生物愛好会 動物公園でのボランティア活動お よびディスカッション | 動物公園の活性化策について、学生サークルとの連携の 可能性 | 都市 |
| 6/10 | 福島浜通り | 浪江、富岡におけるエネルギーワークショップ、 農業復興現場視察 | 浪江町、広野町店舗との連携、福島復興への貢献の可 能性 | 被災地 |
| 6/18 | 小国町 | 授業視察 木質バイオマス活用、里山景観・地域資 源の調査 | 持続可能なエネルギー社会の構築、山村におけるモデル 構築 | 自然 なりわい |
| 6/24 | 島根県 | 授業視察 植樹、木質バイオマス活用、木材利 活用の調査 | 自治体連携による植樹の拡大、ブレカット工場と連携し たノベリティー開発 | 自然 なりわい |
| 7/2 | 綾町 | 授業視察 植樹地視察、近隣農家・産直施設視察、 照葉樹林文化のレクチャー | 商品開発等への学生の参加、地域の価値を見える化する 取り組みへの奇与 | 自然 文化 なりわい |
| 7/9 | 厚真町 | 授業視察 植樹地視察、被災現場視察、ローカ ルベンチャー視察 | 交流人口としての学生の関与 | 被災地 なりわい |

AEON TOWA リサーチセンター 2022成果報告会

第二部 14：10～15：20

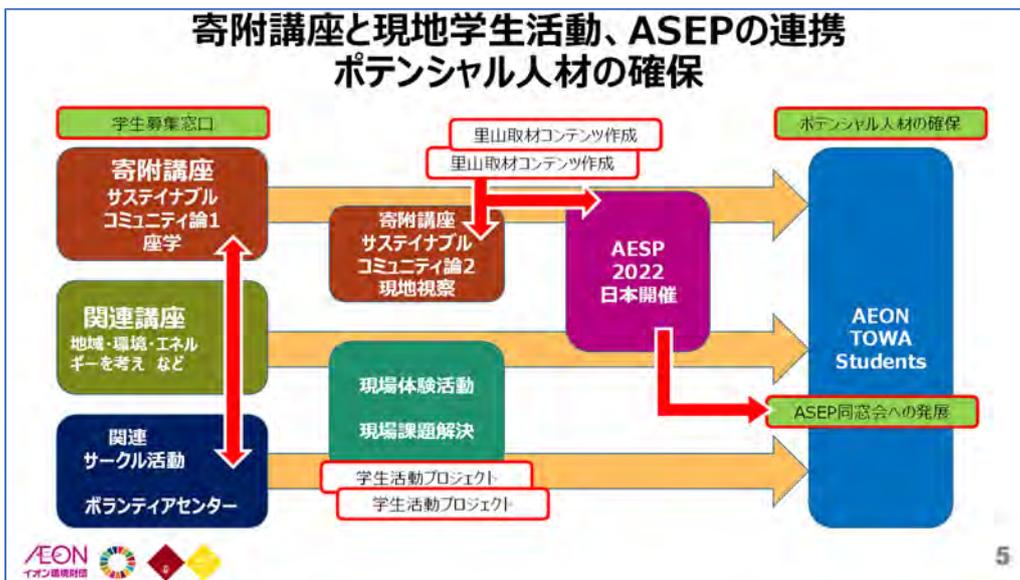
「共に育つきっかけとなる里山」

カリキュラム等を通じて、大学生とイオンピープルが共に学ぶ「共育」や、地域現場の活用実践を試行してきたが、その成果について報告し、多世代共創の学び、対話やディスカッションの必要性を考える。

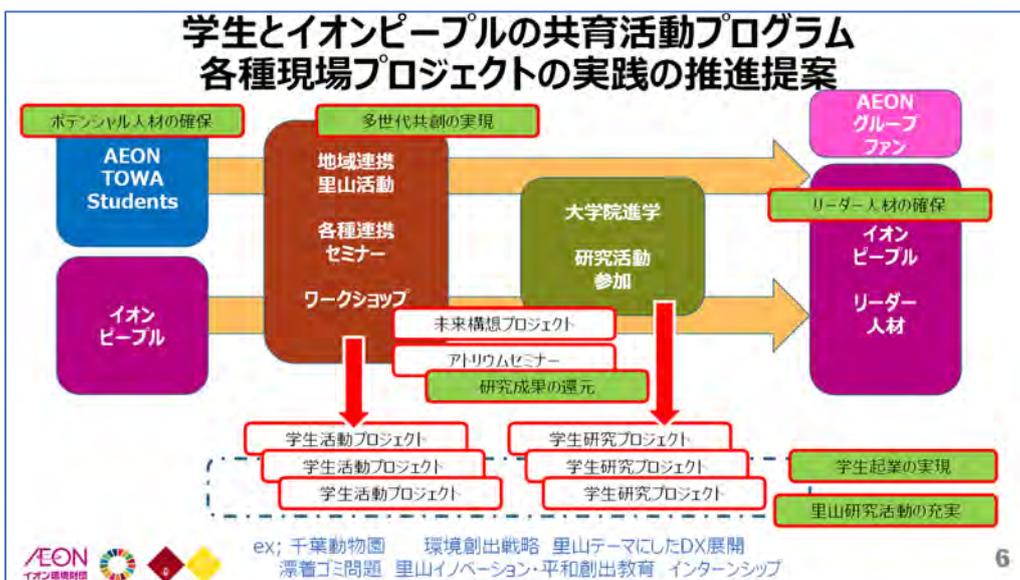
- 多様な里山への捉え方**
 対話や交流・協働への発展
- 課題に対して協働する場**
 協働を通じた学び



3



5



ex; 千葉動物園 環境創出戦略 里山テーマにしたDX展開
 漂着ゴミ問題 里山イノベーション・平和創出教育 インターンシップ

6

アジア学生交流環境フォーラム ASEPの報告

- 2022/8/2~2022/8/4 (リモート開催)
- 早稲田大学がホスト校 (主催:イオン環境財団 共催:環境総研)
- テーマは『SATOYAMA : Our Future COMMONS』
 - イオンの里山の概念を用いて、国ごとの里山システム (コモンズ) を議論し、新しいシステムを展望する。
- 9大学90人参加

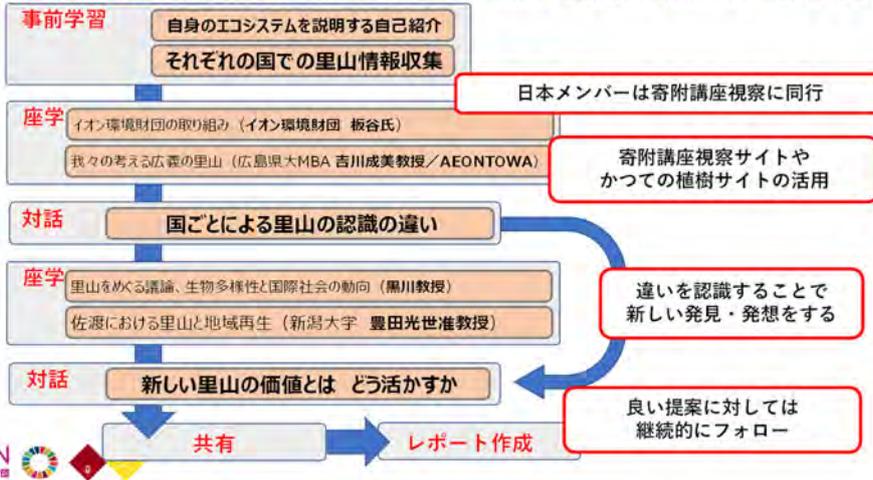
参加校: 王立ブノンペン大学 (カンボジア)、清華大学 (中国)、インドネシア大学 (インドネシア)、高麗大学校 (韓国)、マラヤ大学 (マレーシア)、チュラロンコン大学 (タイ)、ベトナム国家大学ハノイ校 (ベトナム)、フィリピン大学 (フィリピン)、早稲田大学 (日本)

- 開会挨拶 田中愛治総長、駐日カンボジア大使ほか
- 閉会挨拶 弦間正彦教授 (国際担当理事、社会科学総合学術院)



アジア学生交流環境フォーラム ASEPの報告

イオンの里山の概念を用いて、国ごとの里山システム (コモンズ) を議論し、新しいシステムを展望する。



ASEPの成果共有の例



自然との関係を環境・経済だけでなく協働の必要性その価値も、文化的な価値として捉えるべきとの意見



活動実績一覧 (複数メンバー参加のもののみ)

| 期日 | 訪問地 | 可能性 | 期日 | 訪問地 | 可能性 |
|------|------------------|--|-------|------------------|---|
| 4/24 | 埼玉県久喜市 | スマートタウンの好事例となる研究連携構築 (特にモビリティやエネルギー効率化のテーマ) | 6/18 | 山形県小国町 | 持続可能なエネルギー社会の構築、山村におけるモデル構築 |
| 5/3 | 石川県白山市 | 山岳地帯から田園、都市から海でとつながらる自然、ジオパークにおける市民協働の価値の研究 | 6/24 | 島根県 | 自治体連携による植樹の拡大 プレカット工場と連携したノベリティ開発 |
| 5/12 | 北九州市 | まちづくりビジョンの総括と見直し ショッピングモールを生かした新しい展開 | 7/2 | 宮崎県綾町 | 商品開発等への学生の参加 地域の価値を見える化する取り組みへの寄与 |
| 5/14 | 沖縄県竹富町 西表島・黒島 | 離島海岸のゴミ清掃・生き物調査学生 サークルとの連携の可能性 | 7/9 | 北海道厚真町 | 里山の牧場としての活用、新しい生業 交流人口としての学生の関与 |
| 6/4 | 千葉県いすみ市 | 鉄道会社と協力したプロジェクト 里山の吸収源を活かした新事業 学生サークルとの連携可能性 | 10/16 | 長崎県南島原市 | 現地視察 プロジェクトメンバーとの議論、クリ スタン文化など地域資源調査 |
| 6/8 | 千葉市 | 動物公園の活性化策 学生サークルとの連携の可能性 | 11/20 | 竹富町西表島 沖縄やんばる | 漂着ゴミ問題・ヤマネコ保護現場視察 沖縄やんばる等の平和植樹サイト活用 |
| 6/10 | 福島県浜通り | 浪江町、広野町店舗との連携 福島復興への貢献の可能性 | 11/26 | 千葉県九十九里 | 都心近隣サイトとしての植樹現場活用 |
| 6/17 | 新潟県佐渡市 | 里山と棚田のあるかつての植樹地 学生の活動実績もあり好事例 | | | |

環境財団の植樹サイトおよび本学の既存活動地を活かした
研究の展開の検討および教育コンテンツとしての活用を実践



各種現場プロジェクトの実践例

生物同好会連携

ex; 千葉動物園



動物園側とのディスカッションを実施、動物展示の魅力開発と
千葉県の害獣駆除を併せたような取り組みを検討

ex; 西表島ビーチクリーン



地元の「西表財団」と連携した希少生物保護活動視察と
ビーチクリーン対象地の選定を実施

地域系サークル連携

ex; いすみ市



いすみ鉄道と連携した地域活性化プロジェクトの一環として、沿
線の植樹や菜の花栽培のプロジェクトを計画

ex; 小国町



地域資源を活かした小国町の「ゼロカーボンビジョン」策定に
取り組み、里山の多様な価値の可能性を検討



自然と人間の繋がりの豊かさから地域課題の解決策を学ぶ



活動の報告

吾妻優大 政治経済学部4年

地域系のサークルとして、千葉いすみ市での活動を中心に、山形小国町、埼玉本庄市での活動を展開。全国各地を巡り、地域課題を学んでいる。専門は地方行政学で、卒論のテーマは「郊外住宅地の将来性」。AEON TOWA Studentsとして、ASEPIにも参加！

押しWAONカード

ちば子育てWAON



美しい景観をなす里山・里海



里山は竹が繁茂し荒れている



12

自然と人間の繋がりの豊かさから地域課題の解決策を学ぶ

植樹や里山の価値について



バイオマスなど地域資源の活用



里山の恵みを活かしたリクリエーション

地域においてはさまざまな自然の恵みを体験したほかに、さまざまな社会課題を学んだ。人口減少が最も顕著な問題であるが、そうした人手不足は地域の自然環境の維持も難しいことを学んだ。一見、美しい森だと思った景色は、木材需要の減少で価値を生まない森になっており、竹の増殖による森の荒廃も進んでいる。自然の恵みを守りたいと思う一方、解決策の見えない課題が山積みなことに心を痛めた。大変なことだが、この森を守る仕組みを作ることが、すなわち地域の活性化につながるのではないかと考えた。里山には、豊かな恵みがあり、これらを積極的に活かすこと、楽しむことが重要であると思う。

自然の恵みを育む森・リクリエーションの森
地域を里山中心に考えて課題解決を考えてみる



13

地域の豊かさを都市につなぐ 価値創出の実践に学ぶ



活動の報告

小泉勇輔 政治経済学部4年

地域系のサークルとして、さまざまな地域での活動を展開。地域と都市をつなぐ「ローカルフェスタ」を企画するなど、地域系サークルのリーダー的存在！現在は休学して福岡嘉麻市の職員として、地域の産品ブランド構築に取り組む。地域の恵みを都市につなぐことで、新しい都市と地域の関係を構築したいと考えている。

推しWAONカード

しずおか富士山WAON



地域食材を活かした商店街コラボメニュー開発と販売



「食べて終わり」にしないPRを実施



14

地域の豊かさを都市につなぐ 価値創出の実践に学ぶ

イオンを学ぶ価値について



嘉麻市ふるさと納税の返礼品開発を実施



イオンの店舗への視察
(ユネスコエコパーク自治体の産直販売)

地域の資源を活かす方法を実践する中で、消費者に価値を伝えることの難しさを学んだ。価値は他人に受け入れられて初めて価値になることを知った。商品開発の体験は、まさに価値創出を学ぶ重要な経験になった。また、販売に際して、地域の魅力ある素材のストーリーを伝えることで価値が増幅することを学んだ。地域の豊かな暮らしを伝える化することが、価値創出に効果的だと学んだ。今年にはコロナ禍で、イオン店舗での販売はできなかったが、今後、店舗での販売を実現したい。

地域資源の活用・販売の実践を通じて学ぶ
地域の価値の創出と持続的に維持すること



15

被災地で見た現状に都市と地域の関係のありかたを学ぶ



横山景一 文化構想学部3年

GEC授業「地域・環境・エネルギー」など聴講し、福島の問題に興味を持つ。昨年9月に2度目の福島訪問、福島第一原子力発電所の事故処理現場や、帰還困難区域の大熊町などを訪問。福島に対する認識を新たにすると同時に、課題に対する当事者意識を持つに至った。

押しWAONカード

がんばろう 福島!
東北復興支援WAON



活動の報告



福島第一原子力発電所の事故処理現場



津波が押し寄せた請戸小学校の震災遺構



被災地で見た現状に都市と地域の関係のありかたを学ぶ

植樹や里山の価値について



今もなお残る帰還困難区域



長期化する復興を支える移動販売者

福島での視察を通じて、都市の生活を維持するために、地域には大きな負担を強いてきた現実を学んだ。現地には、10年以上たつのに未だに災害の痕跡が残る、原子力発電所の事故処理もまだまだ先の見えない。自分たちの世代も、どうすべきか考えなければいけない当事者であることに気づいた。今後、積極的に福島の問題に関わることはないかもしれないが、時には思い出す必要やきっかけが必要であり、積極的な福島産品の消費で今後も関わりたいと思った。そうした意味で植樹のような取り組みは、交流人口の繋がりをつくる仕組みとなるのではないかな。

交流人口・関係性を生む森
植樹を通じて地域を知るきっかけと交流が生まれる



災害・平和伝承の意義をイオンの植樹への想いに学ぶ



高垣慶太 社会科学部2年

広島出身で高校の頃より核兵器廃絶や平和に関する市民活動に参加してきた。現在、福島復興に取り組む地域の人々と共に、東日本大震災にともなう福島原発の事故とは何だったのか。何をどう伝えるべきか。教訓の伝承について考える活動を展開中。
サステイナブルコミュニティ論も受講！ 綾町視察チーム

推しWAONカード

Hiroshima平和祈念WAON



活動の報告

朝日新聞 DIGITAL
トップ 経済 政治 社会 スポーツ オピニオン 日・科学 文化・芸術 ライフ



さまざまな地域の人々との対話「1F地域塾」
※朝日新聞記事より



一般社団法人「大熊未来塾」との広島視察



災害・平和伝承の意義をイオンの植樹への想いに学ぶ

木々の保存・植樹と記憶継承



広島平和記念公園の緑地(左)と被爆樹木(右)



街の歴史を伝える木々(大熊町の帰還困難区域内)

樹木には人々の想いを封じ込める不思議な力がある。イオンの森づくりも平和への願いを込めて森を育んだり、環境保全・自然の再生に力を入れていることを学んだ。

大熊未来塾でも、大熊町の被災地の記憶を樹木の保存という形で表現しようと試みている。被災樹木の2世の苗木を他の地域にも広げることで、世代を越えて取り組まなければならない福島の廃炉に対する問題意識の風化防止や、教訓の伝播に活かすことができないかと検討している。

鎮魂や祈り・願いを共有する森
植樹を通じて世代つなぎ平和の尊さや教訓を伝える



世界遺産の森で見た文明社会の現実 自然を守る難しさを学ぶ



活動の報告

植田航 社会科学部2年

生物同好会所属 動物大好き（特にヘビ）。

動物好きが故に自然の豊かさを守ることに敏感。
サステイナブルコミュニティ論も受講！ASEPにも参加！
千葉動物園の清掃ボランティアにも参加！

押しWAONカード

やんばるちむとんとんWAON



西表島での海洋漂着ゴミ調査



夜は毎晩、希少生物を探しに



21

世界遺産の森で見た文明社会の現実 自然を守る難しさを学ぶ

植樹や里山の価値について



自然を守る意義を目の当たりにする



脱プラスチックの課題を身をもって知る

イオン環境財団が世界自然遺産の保全にも積極的に関わっていることは初めて知った。私たちの消費生活からでるゴミが自然破壊につながることを考えると、私たちのライフスタイルと合わせて考える必然性があり、イオンの皆さんと我々が一緒に取り組むべき問題と理解した。

我々は普段は自然の希少な生き物や、美しい景色に目を向けているが、その後ろにある社会課題を知ると、多いなる学びにつながる事がわかった。

原生林の森・守るべき生物多様性の森・学びの森
森を守る活動を通じて人間社会のあり方を見つめ直す



23

新しい地域・都市を構築するイオンのまちづくり・人づくりに学ぶ



脇舩美菜 文学部3年

地域、人との交流などに関心を持ち、2020年からAEONTOWA Studentsに参加。

一昨年、企業と学生が現場に赴き、同じ視点で社会課題を考える機会を作りたいと、日本初の学生視点のインターンシップを企画した。また、2021年のASEP一部運営として参加し、2022年には参加者としてASEPへの参加や、北海道厚真市への視察、イオンの企画に積極的に参加している。

推しWAONカード

兵庫こうのとりWAON



活動の報告



5days インターンシップのチラン



参加学生と共にイオンを知るワークショップ



新しい地域・都市を構築するイオンのまちづくり・人づくりに学ぶ

イオンを学ぶ価値について



イオンの最新の取り組みを聞いて
新たな提案を作り上げる



イオンの未来づくりへの参加

イオンについて学んだ上で、イオン戦略策定ワークショップに参加したり、「Future Earth」対話プロジェクトに学生代表として出席し、「自然と調和したライフスタイル」からSDGsを考える対話に参加するなど、イオングループの取り組むさまざまな事業に参加することができた。

イオングループの視点に立つて考えること、また学生だけれども、自分の意思を伝え挑戦できる環境がAEON TOWAにはあり、地域・環境・社会課題解決への学びに加え、自身の考えを知る契機になった。

**イオンを学ぶことで新しい地域づくりを学ぶ
イオンを通じて新しい価値創造を考える**



「国際環境リーダー論」における「共育」の実践

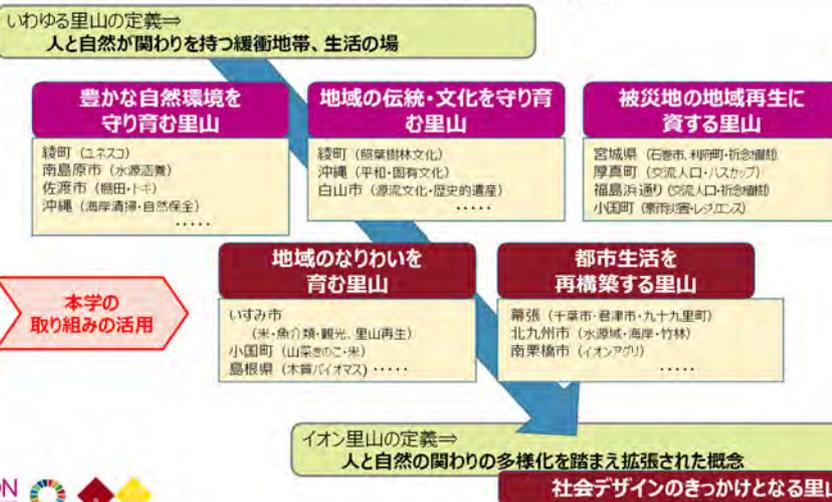
イオンを学ぶ価値について



地球規模の課題を多様な視点で共に考える
共育を通じて相互に学びを高度化する



イオンの里山の類型化



31

イオンの里山の類型とその意義 共育から創出される価値



AEON TOWA リサーチセンター 2022 成果報告会

第三部 17:30~16:30

「課題解決のきっかけとなる里山」

その他の連携活動・研究活動を通してAEON TOWAが里山の可能性をどう捉えているか、人間と自然、地域・国際・平和など広い視点での議論を行う。

ご登壇

南川秀樹さん 日本環境衛生センター理事長、イオン環境財団理事、元環境省事務次官、AEON TOWA 未来構想会議委員、中国政府環境委員会国際委員

平塚基志さん 早稲田大学人間科学部准教授

大津さんご一家 阿蘇の麓から 昨年に引き続きFEST会場

高木浩徳さん 南島原市みんなの森守協議会事務局長

曾我実由さん 早稲田大学高学部学生

モデレーター

岡田久典 早稲田大学

渡邊紘史さん 早稲田大学政治経済学部学生

地域のコモンズの再構築
地域の多様な価値の源泉

統合的マネジメント
平和・人間・地域



3

創造的総合マネジメント（スキーム・システム・サービス）

スキーム : 全国500自治体調査をふまえた里山類型4つ(自然・なりわい・地域再生・都市再構築)に学生・イオンピープル・有識者 特にアジアのトップ大学の大学生との対話の中で 伝統と文化の要素を加えて拡大)

システム : 共に育つ多世代共創プラットフォームの形成(AEON TOWA リサーチセンターの充実)

サービス : 里山にかかわるすべての 学生とイオンピープル等が共に育つための、共育各種プログラム(座学と現地研修をうまく組み合わせた)の実施と価値指標マネジメント

こうしたスキーム→システム→サービスをふまえて
多面的価値を見出していくプロセスを里山システムと位置づけていく。

人間、社会、自然、地域、国際、平和創出



4

『イオンの里山』の定義・構築をめざす



5

具体的な研究展開例



10

理念と現実と未来の結合



現代の様々な問題を反映しているともいえる、里山(新たな定義を構築中)をベースに、自然、地域・社会・環境・平和の持続性対策と創出をふまえて、地域と生活者目線で本学が目指す「たくましい知性」と「しなやかな感性」を備えた人材育成プラットフォームを形成する。



13

新しい研究参画メンバーとテーマ



早田 宰

(早稲田大学社会科学総合学術院長・教授)

里山・里地・里海をつなぐ現場における持続可能なシステムの研究。



黒川 哲志

(早稲田大学社会科学総合学術院・教授)

環境財団の連携自治体などにおける環境行政と地域活動の関係に関する研究

参考) 既存参画メンバー

森林生態系マネジメント
市民による創造的環境創出
平塚基志准教授



分散型エネルギー・モビリティ
小野弘士教授



資源循環・市民共創システム
永井祐二研究院教授



レジリエンス・福島復興
松岡俊二教授



自治体連携、関係人口・社会
マネジメント工学・里山多面的機能
岡田久典上級研究員



地域経営・企業経営
友成真一教授



14

アトリウムセミナーや地域でのセミナー企画など さらなる共育の場の創出へ

記念行事（セレモニー）

寄附講座の設置に際し、岡田卓也記念アトリウムなどで、セレモニーを行い、一連のセミナー等の実施を宣言する。

コロナ感染症対策のため延期中



岡田卓也記念アトリウムセミナー

AEON TOWA連続セミナーを設置する。企画はイオンビープルと学生等が協働し、企画実施自体を共育の場とする。

業界セミナーなどで講演の場を設けたが、リモートも活用して共育の場の中核とする



里山を核とした様々な話題の講演とワークショップ

イオンビープルと共に学ぶ講座

本年度の研究に基づく、ビデオアーカイブ（里山連携手法、里山とICT、里山マネジメント、環境全般）など、15分程度のものを中心に整備する。

各種連携事業（レクチャー、ワークショップ）の企画



里山をベースとした、地域連携、関係人口の創出、多面的機能研究などなど

地域でのセミナー・シンポジウム企画

シンポジウム開催地を地方で行うことで、地域店舗等での連携企画に発展させる（多くの自治体からリクエスト有り）。

より全学的、大学間連携（財団関連大学との協働）、アジア大学間連携（ASEPベース）につなげる

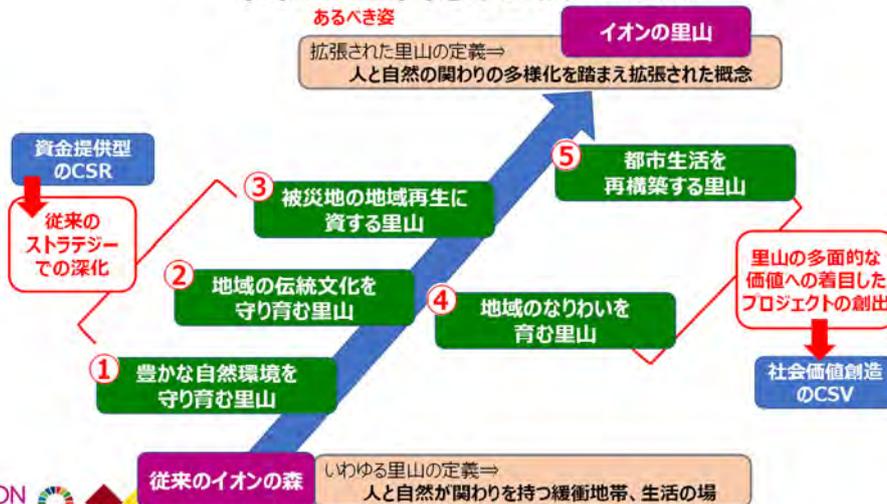


各分野の研究会実施
地域とのより密接な関係を構築



15

イオンの里山をめざすプロセス



16

今年度の総括

- 上半期は、「寄附講座」「企業セミナー」「サークル連携」などの仕組み作り。
⇒「共育」基盤の構築、試行の実施
- ASEPなど従来企画の連携と、テーマに一貫性を持たせる取り組み。現場実習での活用を重点的に実践した。
⇒里山研究の拡張と活用の実践
- その過程で、学内関係者を広げた。
⇒テーマがマッチする複数研究者の巻き込み



17

第三部登壇者、登場者

ご登壇

南川秀樹さん

日本環境衛生センター理事長、イオン環境財団理事、
元環境省事務次官、AEONTOWA未来構想会議委員、
中国政府環境委員会国際委員

高木浩徳さん

南島原市みんなの森守協議会事務局長

曾我実由さん

早稲田大学商学部学生

渡邊紘史さん

早稲田大学政治経済学部学生

平塚基志さん

早稲田大学人間科学部准教授

大津さんご一家

阿蘇の麓から 昨年に引き続きリモート登場

モデレーター

岡田久典

早稲田大学



18

世界が認めた
長崎県
南島原市



『島原・天草一揆』終焉の地
■ 原城跡(世界文化遺産)



国内生産第2位
■ 島原手延べそうめん



南島原は長崎県島原半島の南部に位置し、平成18年8つの町が合併してできた人口約42,000人の市です。北に雲仙普賢岳、南に有明海を隔てて天草を望むことができる風光明媚なまちです。



19

南島原みんなの
森守協議会



南島原市みんなの森守協議会は、南島原イオンの里山をフィールドとして活動している組織で、「森づくり、地域づくり、人づくり」を目的として、地域の子供たちを対象として、森林環境体験学習を実施しています。



森林環境体験学習



イオンの里山第1号
南島原イオンの
里山



炭素蓄積量調査

植樹で創る、学びの森。

— 活動報告 —

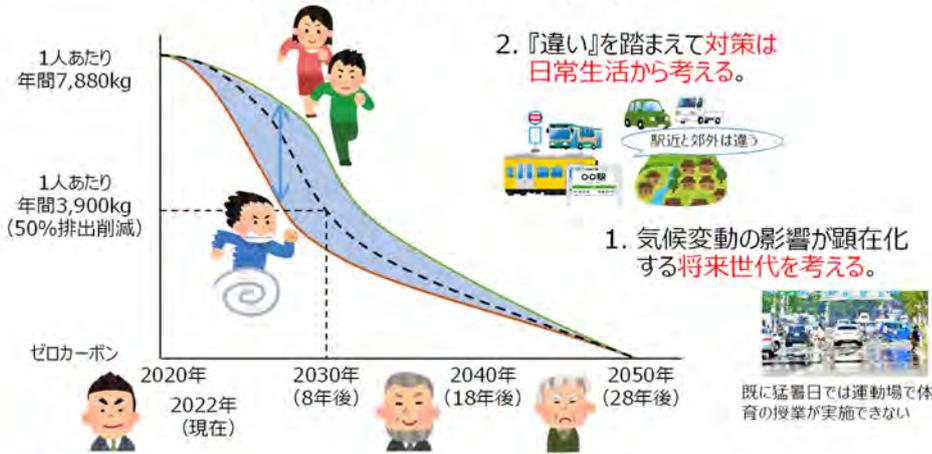
※この活動は、南島原市環境課との協働で行われています。また、この活動は、南島原市環境課の協賛で行われています。

20



マチごとゼロカーボン市民会議

市民会議で意識してきたこと



里山からのサービスを地域に適應させる

